

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	相澤 伊織	学校名	宮城県仙台市立愛宕中学校
担当教科等	社会	対象学年（人数）	1年1組 24名
実践年月日もしくは期間（時数）	令和7年10月20日（月）～11月14日（金）		

【実践概要】

1. 単元名：第2章 世界の諸地域 アフリカ州	
2. 小単元目標 〈 小単元目標 〉 (1) アフリカ州の経済発展を妨げている要因を捉え、資料を収集・選択し、的確に読み取ることができる。また、空間的相互依存作用に注目して、現在の課題や国際協力の意義を理解することができる。 (2) アフリカ州の経済発展を妨げている要因や様々な地球的課題について地球市民としての関わり方を多面的・多角的に考察し、適切に表現することができる。 (3) アフリカ州の自然環境、産業、生活・文化などの特色について概観し、特に、国際協力の意義、相互依存関係、地球市民としての社会参画の在り方について、設定された学習テーマを意欲的に追究しようとしている。 〈 関連する学習指導要領上の目標 〉 ・日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりで捉え、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題を捉えさせる。	
3. 単元の評価規準	①知識及び技能 ・アフリカ州に暮らす人々の生活の様子を的確に捉え、地域的特色と地球的課題の現れ方が異なることを理解している。また、地球的課題を解決するための国際協力の意義を理解している。
	②思考力、判断力、表現力等 ・アフリカ州で見られる地球的課題の要因や影響を、地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付け多面的・多角的に考察し、表現している。
	③主体的に学習に取り組む態度 ・アフリカ州の地域的特色について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 本小単元は、中学校学習指導要領解説社会科編では、「B世界の様々な地域」の「(2)世界の諸地域」の「③ アフリカ州」を主な指導内容として構成したものである。この中項目について、「空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること」と解説されている。 本小単元のアフリカ州は、経済発展が途上である国が多く、食糧問題、貧困、モノカルチャー経済など地球的課題を多く抱えている。そのような地球的課題が生じている要因を地形や気候、歴史、産業などから多面的・多角的に考察することができる。さらに、日本をはじめとする先進国がそのような課題に加担していることに気付くことのできる小単元である。 また、今日の社会は、グローバル化が進み、外国人観光客や外国人労働者が多く日本を訪れている。さらに、学区内は仙台市の中でも外国人が多く住む地域である。一方で、そのような外国人とのつながりが希薄であることやナショナルリズム

ムが進み、排他的な言動も見られる。これは、この地域に限ったことではなく、国家間や政党、個人単位でも見られ、自分さえよければ良いという利己主義が広まっているように感じる。そのような中で、人のために行動する喜び、誰かのためにした小さな行動が世界とつながることを実感するために、実際に教師海外研修に参加した教員の体験や写真を通して身近に感じ、生徒の今後の人生の視野を広げ、最終的には地球的市民としての公民的資質の向上につなげていきたい。

【生徒観】

令和7年4月に実施された仙台市標準学力検査の結果は、本学年において、社会科では-6.0ポイント、観点別が「知識・技能」で-6.1ポイント、「思考・判断・表現」で-5.7ポイントと、ほぼすべての項目で6ポイント程度仙台市平均を下回っており、課題があると言える。一方で、帰国後ザンビアに関する授業を実施したところ、「ものが十分でないのに工夫しているのがすごい」「こんなに楽しそうなのに大人になったら仕事がなくなると思うと心配だ」「ザンビアに行ってみよう」と答えるなど興味・関心を持ち、意欲的に取り組む生徒も増えてきた。また、9月に行った学習アンケートによると、63%が話し合い活動によって理解が深まると感じており、講義形式の授業が22%だったことに比べると高くなっていった。実際に授業でも他者の意見を聞くことで、振り返りの内容が多角的なものの見方になっていた。

【教材観】

「貿易ゲーム」や「チョコレートの裏側の物語」は先進国と途上国、そして日本と世界を意識するために、重要な教材である。日本で現在のような生活を送ることができている裏側には、どこかで苦しんでいる人がいると考えることができ、そこから「何かしてあげたい」という支援の心や「これは仕方がないことだ」というどこか諦めた気持ちなど、様々な感情が沸き起こってくる。実際にどうしてそのような地球的課題が生じているのか要因を探り、課題解決に向けて自分たちができることを多面的・多角的に考え、世界とつながりを持つことができると考える。

【指導観】

地球市民である私たちにとって、異文化を理解し、尊重することはもちろん、地球的課題について社会参画しようとすることは重要なことである。一方で、アフリカ州は日本から遠く、経済発展も途上にあるため生活の様子があまりに異なるため、疎遠に感じてしまう生徒が多い。

したがって、「貿易ゲーム」などの活動や実際に教師海外研修で見てきたものや出来事を生徒と共有することで、ザンビアで出会った人々が様々な課題を抱えながらも生きる姿や日々を楽しむ姿、私たちとの共通点を見付けることで、アフリカ州を身近に感じ、何かしたい、考え続けたいと思える主体性を身に付けさせたい。また、自分の行動が良くも悪くも世界に影響を与えることを、様々な開発教育の手法を用いて実感させたい。

その中で、国際協力は難しいことではなく、今すぐに何かしなければいけないものではない、できることが見付からなくてもどかしい気持ちになったとしても良いことを伝え、いつかどこかで世界とつながるときに、前向きな関係を築けるよう種まきをしたいと考えている。

5. 単元計画 (全8時間)

時	『小単元名』 ○学習のねらい	学習活動	資料など ※JICA リソース活用
1 2	社会『世界の不均衡を感じよう』 ○世界の不均衡を肌で感じ、世界の不均衡の原因が先進国にあること、国際協力について理解する。	・体育館を使用して「貿易ゲーム」を行う。 ・2時間目に実際の動きを確認しながら、全体で確認をし、国際協力について理解する。	※DEAR 開発教育教材 「貿易ゲーム」 ・振り返りシート
3	道徳『チョコレートの裏側の物語』 ○自分の考えを持って、他の立場や考えを受け入れ、さまざまな考え方に触れる。 ○商品(物事)の背景に関心を持つ。	・「あいのり」の動画を視聴する。 ・チョコレートをあげるかあげないか自分の考えを記入し、班で共有する。	・「あいのり」の動画 ・スライド ・振り返りシート
4	社会『アフリカ州～自然環境～』 ○アフリカ州の地形や気候の特徴を捉え、貧困の原因を多面的に捉える。	・アフリカ州の地形や気候の特徴を資料から読み取り、自然環境から見た課題を捉える。	・教科書 ・授業用ワークシート ・ロイロノート
5	社会『アフリカ州～ザンビアの文化～』 ○異文化を受け入れる態度を身に付けようとする。	・「ちがいのちがいの活動を通して、ザンビア(アフリカの国)との文化のちがいを理解する。 ・日本の当たり前の生活が、ザンビアでは当たり前ではないこと、身近にある差別や偏見に気付く。	・「ちがいのちがいのカード(13枚) ・ゴミ山の写真や動画 ・学校の写真や動画 ・振り返りシート
6	社会『アフリカ州～植民地支配の影響が残る産業～』 ○アフリカ州の国々がたどってきた歴史や文化は、人々の生活に影響を与えていることを理解する。	・人口増加や食料不足、先進国が作り出した経済構造のモノカルチャー経済によって、貧困が深刻化していることを資料から読み取る。 ・貧困から抜け出すために、国際機関やNGOの協力、フェアトレードの取組が行われていることを理解する。	・教科書 ・フェアトレード商品 ・NGOの紹介 ・ユニクロの古着支援、ガーナのデンス川の写真 ・ロイロノート
7 本時	社会『アフリカ州～貧困の原因を探り、解決策を考える～』 ○ジコモ村の生活の課題を捉え、国際協力の在り方を多角的に考察する。	・貧困の原因を多面的・多角的に考察する。 ・ケースメソッド「ジコモ村の生活を改善するには」について、様々な支援の在り方から、何が現地の人に適した支援かを考える。 ・一方的な支援ではなく、現地の人に寄り添う支援の重要性を理解する。	・ケースメソッド資料 ・ペアランキング ・振り返りシート
8	社会『アフリカ州～私たちができることは何だろう～』 ○よりよい社会の実現に向けて、自分はどのようにしていくべきか、何ができるかを考え、表現する。	・地球市民として、世界とどのように関わるべきかを考え、アクションプランにまとめる。 ・今できることだけでなく、いつかつながる未来があることを感じられるよう、意見を全体共有し、JICA隊員の話をする。	・Canva ・ロイロノート ・カメラ

6. 本時の展開（7時間目）			
本時のねらい：ジコモ村の生活の課題を捉え、国際協力の在り方を多角的に考察する。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
導入 (7分)	1. 前回までの授業の復習をする。特に、サウスアフリカの貧困の原因を確認する。 S：自然環境（砂漠化、干ばつなど） S：経済（モノカルチャー経済） S：先進国のせい S：人口増加で食料不足が続いている 2. どうしたら貧困から抜け出せるのか、これまでの学習を基に案を出す。 S：フェアトレード商品を買う S：寄付をする S：子どもたちを学校に通えるようにする S：先進国の技術を教えに行く	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的に捉えられるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート
展開 (35分)	3. 本時の課題を確認する。 T：すべての支援を一斉に行うことはできないことを確認し、班で優先順位を考えてもらうことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時の課題：ジコモ村の生活を改善するためには、どうしたらいいのだろう。 </div> T：ペアランキングの使い方の説明をする。 T：班になるように伝える。 4. 班で優先順位を考える。 井戸の修繕 S（肯定）：今、困っているのは、水が容易に手に入らないことだから、まずは井戸を直してから、その後考えればよいのではないか。 S（肯定）：水は人間にとって欠かせないものである。畑を耕すことができれば、生活も豊かになるのではないか。 S（否定）：また壊れるかもしれないから、技術者を育てることが最初ではないか。 教育支援 S（肯定）：教育力をあげることで、今すぐには改善しないかもしれないが、今の子どもたちが大人になったときに状況が改善していると思う。 S（肯定）：学校に行けば、そこで他の家庭や地域の情報を手に入れることができるのではないか。 S（否定）：子どもが家で働けなくなると収入が減って生活ができなくなるのではないか。 技術者育成 S（肯定）：技術者が育てば、次井戸が壊れたとしても自分たちで直せるから持続可能なので	<ul style="list-style-type: none"> ・ジコモ村の貧困の状況を確認した上で考えるよう指示をする。 ・班は生活班で実施する。 ・班ごとに意見を交換させる。 ・4つの項目の他に班の中で必要だと思った項目があれば、追加して検討するように指示を出す。(物資支援など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジコモ村設定ワークシート ・ペアランキングのシート

	<p>はないか。</p> <p>S (肯定)：技術があれば、この村から出て働くこともでき、現金収入が得られる。</p> <p>S (否定)：技術者が育つには時間がかかる。その後、村に留まらず、都市部へ出ていくのではないか。</p> <p>病院・衛生面の整備</p> <p>S (肯定)：病気が蔓延してしまうとそれこそ働けなくなる人が出てくるはずだ。病院があったら安心だ。</p> <p>S (否定)：病院を建てるだけで、医師や看護師がいなかったら意味がないのではないか。</p> <p>5. 他の班の意見を聞いて、考えを深める。</p> <p>T:班の中で一番詳しい人は自分の班に残り、他の人は、自分以外の班に行くように伝える。</p> <p>S (班の代表)：自分の班のペアランキングの説明をする。</p> <p>S (リスナー)：他の班の発表をよく聞き、自分の班に戻って説明をする。</p> <p>T:最終的な優先順位の確認をする。いくつかの班に発表してもらう。</p>	<p>・特に、自分の班で悩んだ点について、聞くように助言する。</p> <p>・さまざまな立場のことを考えている班に意図的指名をし、多角的に捉えさせたい。</p>	
<p>まとめ</p> <p>(8分)</p>	<p>6. 振り返りを行う。</p> <p>S:振り返りシートを使って、本時に考えたことや感じたことを記入する。</p>		<p>・振り返りシート</p>
<p>7. 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、ジコモ村の設定を丁寧に読み取り、その村の人々の立場に寄り添いながら意欲的に活動に取り組んだ。 ・すべての班で、「病院・衛生面の整備」が最優先事項として選ばれた。しかし、一部の生徒は、単元内で十分に触れられていなかったことから、日本のように衛生環境が整った病院を想像し、病院が整備されれば水も容易に確保できると考える班も見られた。今後は、ザンビアの医療施設の実際の写真などを事前に提示し、現地の状況を具体的にイメージできるようにする必要がある。 ・班内で意見が一人だけ異なる場合、最終的に多数決で決定されたことで拗ねてしまう生徒が見られた。話し合いのルールを事前に班自身で設定させ、それを徹底させることが重要である。 ・「ペアランキング」の活用については、進め方に慣れるための練習が必要であるものの、優先順位を設定し、その理由を考えながら判断する学習活動としては効果的であったと感じられる。 ・話し合いの場で発言しなかった生徒も、振り返りシートでは「結局意味のある支援って何だろう」と記述しており、個々が自分なりの考えを持って活動に参加していたことが伺えた。 			
<p>8. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班活動の中で、単に意見を交換するだけでなく、試行錯誤を繰り返しながら話し合いを進めさせるために、ペアランキングの手法を取り入れた。また、枠にとらわれず自分のアイデアを出すことも重要であると考え、ペアランキング内に班ごとに一つ自由に項目を設定できる工夫を加えた。 			

9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・授業実践の適宜案内（貿易ゲームやチョコレートの裏側の物語など）
- ・他学年での授業実践
- ・学校の掲示物
- ・職員室でのフェアトレード商品提供
- ・仙台市が設定した新教科「国際探究科」との関連性

【自己評価】

10. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の選定には苦労した。現地で実際に見聞きした経験を踏まえ、生徒に見せたい資料が多くあったため、どの資料をどの順番で提示することが、生徒の理解や学びに最も効果的であるかを検討することに悩んだ。生徒がより具体的にイメージを形成できるよう、生徒の実態を踏まえた工夫をしていく必要がある。 ・ケースメソッドの設定については工夫を要したため、他校の授業実践例を参考にしながら作成した。
11. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・他校で実践する場合は、アフリカを扱う授業において、個々の授業時間だけで完結させるのではなく、単元全体を通して生徒が一貫したイメージを形成できるようにすることが重要である。そのためには、単元を貫く明確なねらいを設定し、それに基づいて授業を構成していく必要がある。また、貧困などの否定的側面のみならず、多様な文化や人々の暮らし、発展の可能性などにも目を向けさせることで、生徒が「面白そうだ」「もっと知りたい」と主体的に学ぼうとする意欲を喚起することが求められる。 ・授業を再度実践するにあたっては、生徒が「病院・医療」に対して日本の清潔で整備された病院を想起していたため、課題解決の優先順位が「病院・医療」に過度に偏る結果となった。この点については、事前に写真や動画などの資料を用いて、ザンビアにおける医療施設の実情を具体的に提示し、生徒が現地の状況を適切にイメージできるようにする必要があったと考えられる。また、ペアランキング活動において「井戸の修繕」「教育」「病院・医療」「技術提供」を提示した際、それらの選択肢が同一の基準で並列的に示されていなかったため、生徒に混乱を生じさせてしまった。今後は、項目の提示方法や表現を整理し、比較・検討がしやすい形で示す工夫が求められる。 ・振り返りシートの作成には課題を感じた。「貿易ゲーム」「チョコレートの裏側の物語」「ちがいのちがい」においては、生徒の感情面に着目した振り返りが学びを深める上で効果的であった。一方で、本時の授業では、班活動やアイデアを出し合うこと自体の楽しさに言及する記述が中心となり、学習内容に対する思考の深まりが十分に表れなかった。そのため、本時においては、個人で考えたことや気づきを記述させる形式とするだけでも十分であったと考えられる。 ・「貿易ゲーム」における振り返りでは、1時間目の写真を用いて説明すると、生徒にとってより実感の伴う振り返りが可能であると感じた。たとえば、「道具を持っている班」と「道具を持っていない班」の様子に加えて、先進国・途上国を示す吹き出しを付けるなどの工夫が考えられる。ただし、生徒を動かしながらスライドを作成することは難しく、実施方法についてさらなる工夫が必要であると感じた。 ・外部機関との連携として、現在 JICA 隊員としてザンビアに派遣されている方の話を生徒に聞かせることができれば、アクションプラン作成の際に、生徒は「現在」の課題だけでなく、将来にわたる展望や可能性をリアルにイメージしながら考えることができたのではないかと感じている。

<p>12. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「貿易ゲーム」は、中学1年生にとって世界の国々や国際的なつながりに目を向けて考える契機となった。また、活動を通して得た気付きや疑問が、その後の学習への関心を高め、以降の活動にも意欲的に取り組む姿勢につながった。 ・道徳科で扱った「チョコレートの裏側の物語」は、生徒にとって身近なチョコレートを題材とすることで、先進国に暮らす私たちの消費行動が、時に貧困を生み出す要因の一つとなっていることに気付かせる学習となった。この学習を通して、生徒は世界の問題を他人事として捉えるのではなく、世界と自分自身との関係性をより身近に感じ、主体的に考えるきっかけを得ることができた。 ・実際のザンビアの村を具体的に想定し、その課題に対する改善策を検討するケースメソッド型の授業は、生徒にとって思考に迷いながらも、「何とかしたい」という思いを持って課題を自分事として捉えることができる学習方法であると感じた。もちろん、このような学びを成立させるためには事前学習が不可欠であるが、事前の理解を踏まえた上で取り組むことで、教科書上の出来事として距離を感じる生徒はおらず、全員が主体的に課題に向き合う姿が見られた。 ・授業者自身が写っている写真を用いて「ちがいのちがい」のカードを作成したところ、中学1年生にとって新鮮な教材となり、活動に対して前向きに取り組む姿が見られた。 ・ペアランキングの項目設定については、すべてを生徒に考えさせるか、ある程度教師側で指定するかを検討した。その結果、基本的な項目は教師が提示しつつ、一部を生徒自身が考案できるようにすることで、活動の方向性を明確にしながら、生徒の自由な発想を生かすことができた。この構成により、生徒は課題を自分事として捉え、主体的に考える姿が見られ、「リーダーの育成によって村を良い方向に導けるのではないか」「太陽光発電があれば電気の問題が解決し、生活が豊かになるのではないか」といった具体的な意見を班で話合うことができた。 ・生徒の振り返りを見ると、単元の冒頭では「しかたがない」「かわいそう」といった受動的・同情的な表現が多く見られたが、単元の終盤には「もやもやした」といった葛藤の感情を表す記述が増え、自らの課題として主体的に捉え始めている様子が伺えた。 ・最後の「アクションプラン作成」においては、記述内容がフェアトレードに偏る傾向は見られたものの、作成したプランを廊下に掲示することで、常に目に触れる形となり、生徒同士で話題にしたり、振り返りを行ったりする機会を確保することができた。
<p>13. 学びの軌跡 (児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■貿易ゲーム振り返り【1・2時間目／8時間】 <ul style="list-style-type: none"> ・先進国は最初から道具があって良かったけど、途上国は最初に道具がなく、不便でかわいそうだなと思いました。 ・資源や技術がある国は経済が発展しやすいと思った。 ・先進国に住んでいる自分には関係ないと思っていましたが、途上国の立場になって大変なのだなと感じました。差はどんどん開いていくので、早めに埋めることが大切だなと思いました。 ■チョコレートの裏側の物語【3時間目／8時間】 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが友達と遊べずに仕事をしていることがもやもやした。そして、こうなった原因を作ったのが先進国だということに驚いた。 ・骨とスープだけになったボウルを最後まで食べていて、それだけ苦しい生活をしていたと思った。最後にチョコレートをあげたときにうれしそうな顔をしていて良かったと思った。 ・どちらの選択も間違いじゃなかったから、人の意見を聞くのが楽しかった。 ・チョコレートや他の食べ物を食べるときに感謝して食べたいと思った。

■サウスアフリカ（南アフリカ）のために何ができるのか【4時間目／8時間】

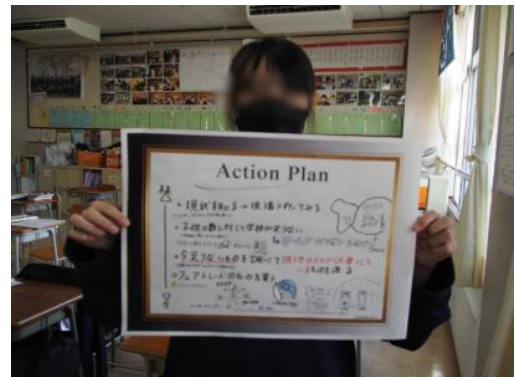
- ・募金をする
- ・節水
- ・水の輸出
- ・南アフリカ産のものを買う
- ・何が起きているのかを知る
- ・物資支援をする
- ・旅行する

■ちがいのちがい【5時間目／8時間】

- ・その土地それぞれの特色は大事だと思うけど、よくない違いはなくした方がよいと思った。
- ・ザンビアの人が不便で可哀そう。でも、知恵を働かせているのがすごい。
- ・日本では当たり前に行っていることがザンビアではできていないという事実は、世界で考えるべきだと思いました。
- ・パンパースの話聞いて、日本の方が遅れていることもあることに気がきました。日本にも改善点はあると思いました。
- ・何かを考えるときは物事の背景を考えることが大事だと思いました。

■アクションプラン【8時間目／8時間】

- ・フェアトレードを SNS などで広める。
- ・今は学校でやっているペットボトルキャップ回収に協力するなどできることをする。
- ・委員会でポスターを作成し、地域に貼る。
- ・まずは親に知らせる。
- ・現状を知り、将来的には現地に行ってみる。アフリカでボランティアをする。



14. 授業者による自由記述

・授業実践において、教師海外研修に同行した教員が来校し授業に参加したことで、生徒は内容をより具体的にイメージしやすくなり、授業そのものを普段以上に前向きに受け止めている様子が見られた。また、教員が楽しそうに語り合い、成長のために挑戦し続ける姿を示すことは、生徒にとって学習を身近で前向きなものとして捉える契機となり、学習意欲の向上にもつながる可能性があると感じられた。

・実際に見聞きした経験を通して、「百聞は一見に如かず」という言葉の重みを改めて実感した。この時期に自らの体験として得た事実や気づきを生徒に伝えることができたことは、今後の授業実践においても大きな財産となるものである。



参考資料：DEAR「新・貿易ゲーム」

7. 単元で活用した資料

①貿易ゲーム振り返りシート	②チョコレートの裏側の物語振り返りシート
③ちがいのちがい振り返りシート	④ジコモ村の振り返りシート
⑤貿易ゲームスライド	⑥ちがいのちがいのカード (13枚)
⑦ジコモ村ワークシート	⑧ジコモ村ペアランキング

学籍番号・氏名 _____

貿易ゲームふりがえり

1. 渡された袋の中には、何が入っていましたか？

.....

2. 次のものは、それぞれ何を表していたと思いますか？

①鉛筆・定規・ハサミ・コンパス→
②紙→

3. 本日を振り返って、どんな気持ちが残っていますか、3つまで選んでください。
(当てはまるものがなければ空欄に記入して丸をつけてください。)

感傷した	うれしい	ほっとした	くやしい
楽しかった	はずかしい	かわいそう	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	備けなし
悲しい	腹が立つ	もやもやした	

4. 本日の活動を振り返っての感想を記入してください。(チャレンジ！このゲームが現実の世界の様子を表しているとするれば、それはどのような点か)

.....

学籍番号・氏名 _____

チヨコレートの裏側の物語

1. あなたならどうする？

あげる ・ あげない

〈理由〉

2. 本日を振り返って、どんな気持ちが残っていますか、3つまで選んでください。
(当てはまるものがなければ空欄に記入して丸をつけてください。)

感傷した	うれしい	ほっとした	嬉しい
楽しかった	腹が立つ	かわいそう	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	備けなし
悲しい	腹が立つ	もやもやした	

・上で○をつけた感情の理由を簡潔に説明しよう。

.....

3. 本時の道徳の授業を振り返って、考えたことや感じたことを書きましょう。

.....

ちがいのちがい

学籍番号・氏名

1. 本日を振り返って、どんな気持ちが残っていますか、3つまで選んでください。
(当てはまるものがなければ空欄に記入して丸をつけてください。)

感動した	うれしい	ほっとした	嬉しい
楽しかった	脈が立つ	かわいそう	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	備けない
悲しい	驚いた	もやもやした	

- ・上で○つけた感情の理由を簡潔に説明しよう。

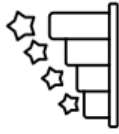
2. 本時の速読の授業を振り返って、考えたことや感じたことを書きましょう。



ジコモモ村の未来 地球の未来を考える

学籍番号・氏名

1. 自分のチームの優先順位ベスト3



1位	2位	3位

2. 本日を振り返って、どんな気持ちが残っていますが、3つまで選んでください。
(当てはまるものがなければ空欄に記入して丸をつけてください。)

感動した	うれしい	ほっとした	嬉しい
楽しかった	脈が立つ	かわいそう	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	備けない
悲しい	驚いた	もやもやした	

3. 本時の社会の授業を振り返って、考えたことや感じたことを書きましょう。
①そのように順位をつけた理由 ②上で○つけた感情の理由を説明しよう。



貿易ゲーム

令和7年10月20日(月)

①グループA～Hはそれぞれの国を表します

②その国のメンバーはその国の国民です

③製品をマーケットに販売してできるだけ多くお金を稼ぐのが目的です(順位つけます)

④完成した商品は、マーケット担当の〇〇さん・〇〇さん(社会係)に商品を買って取ってもらってください。

⑤これから配付する封筒にあるものを使って

⑥何をすればいくらで売れるか表をみて確認してください。

13cm×8cmの長方形 3枚1組 300ドル

1辺が9cmの正三角形 3枚1組で 500ドル

分度器の形 3枚1組で 500ドル

直径9cmの円 3枚1組で1500ドル

小さなクリップが 1個100ドル

大きなクリップが 1個1000ドル

ゲーム開始

13cm×8cmの長方形 3枚1組 300ドル

1辺が9cmの正三角形 3枚1組で 500ドル

分度器の形 3枚1組で 500ドル

直径9cmの円 3枚1組で1500ドル

13cm×8cmの長方形 **5枚1組 100ドル**

1辺が9cmの正三角形 3枚1組で 500ドル

分度器の形 3枚1組で 500ドル

直径9cmの円 3枚1組で1500ドル

どのくらい儲けたのだろうか?

A班 3800ドル	E班 100ドル
B班 4000ドル	F班 11400ドル
C班 1800ドル	G班 4900ドル
D班 1600ドル	H班 800ドル

どのくらい儲けたのだろうか?

A班 3800ドル	F班 11400ドル
B班 4000ドル	G班 4900ドル
C班 1800ドル	H班 800ドル
D班 1600ドル	E班 100ドル

①渡された袋には何が入っていましたか

はじめから道具がそろっている国⇒先進国
道具がない国⇒途上国

鉛筆・定規・ハサミ・コンパス⇒ **技術**

紙⇒ **資源**

②マーケット役に伝えたこと

- 先進国には甘く、途上国には厳しくしてほしい。
- ⇒ブランド力・安心感
- すべての国が上手に作れるようになったら価格変動を伝えてほしい。
- ⇒出回る量が増えると...

バナナ、コーヒーなどどこでも作られるようになればその価格は安くなる...

アジアで行われていた大規模な農園

プランテーション

③他のグループで作業した人はいませんか？

「外国人労働者」

働くとき、簡単に働かせてもらえませんか？
簡単に情報をもらえませんか？
条件はつけられませんか？

対等な取引はできましたか？

④グループ間で協力して製品を作り、収入を分け合ったところはありましたか？

「国際分業」
=得意な分野で分担して協力



⑤他の国から助けられたことはありましたか？

「援助」



⑥紙の切れ端はどうしましたか？



「環境問題」

振り返り

資料⑥ちがいのちがい (カード)



日本のけんじ君は日曜日の午前中に習い事や部活動をする。

ザンビアのムルーノは日曜日に家族で教会での時間を楽しむ。



日本には各家庭に洗濯機はある。

ザンビアには洗濯機がない。



日本の学校は1人につき机が1つ与えられている。

ザンビアの学校では3人で1つの机を使う。



日本は、蛇口をひねると飲み水が出る。

ザンビアは、井戸から水をくむ。



ザンビアではシマを手で食べる。日本ではお米をはして食べる。



ザンビアの首都には、日本のようなトイレがある。ザンビアの地方では、穴をほってトイレにしている。



ザンビア国内で支援が入っている学校は理科の実験ができるが、支援が入っていない学校は理科の実験ができない。



ザンビアのリリアンは11歳で結婚するが。日本の里穂さんは同じ11歳のときに、学校で友達と楽しく遊んでいる。



日本は毎週ゴミを分別し、そのゴミは焼却炉に集められる。ザンビアはゴミを一か所に集めて埋め立てる。



13歳のザンビア人ケビンは学校に通えているが、13歳のジョンは家族のために働いている。



日本では呼べば救急車が来る。

ザンビアでは救急車が走れる状態であれば来る。



日本のりょうすけ君は電気をつけて夜遅くまでゲームをしている。ザンビアのザンベジさんは、暗くなる前に夕飯を食べて寝る。



日本のパンパースのパッケージには日本人の赤ちゃんがうつっている。ザンビアのパッケージにはさまざまな人種がうつっている。

ジコモ村の生活を改善するには？

井戸が壊れているジコモ村。ジコモ村の生活を改善するためにどのような取組が必要か、考えてみましょう。

この村に住む パネッサさん

もう井戸が壊れてもう1年が経つわ。水は食事の準備、洗濯、身体を流すとき、色々な場面で使うから最初は困ったのよ。

今は優しい村長さんが井戸を 20 クワチャで使わせてくれているから、問題なく生活できているよ。みんなが、あと 10 クワチャずつ稼げば、井戸を作れるみたいだけど、その余裕は正直ないわ。今、家族と一緒にいられることが幸せだからいいのよ。



B：現地 NGO 代表 カウンダさん

今、村人たちが頼っているのは村長がもつ個人の井戸です。このままでは、トラブルが起きたときに村全体が困ることにまだ気付いていないのです。それに、病気のリスクだってあるんだ。

その場しのぎではなく、長期的な視点を持って、自分たちで行動を起こしてほしい。

私たちが求めているのは、与えられるのを待つのではなく、自分の手で未来を切り開くという意思です。



現地 JICA スタッフ 田中さん

この村には衛生面で多くの課題があります。乾季と雨季では別世界です。しかし、村人に話を聞くと、「特に困っていない」と答える人が多い。けれど、本当にそうなのか疑問です。

厳しい生活に慣れてしまっていることや他の暮らしを知らない経験の少なさが、現地の人の「幸せ」という言葉につながっているのではないのでしょうか。たとえば、井戸を直しても、また壊れたときにどうするのだろう。この村にとって意味のある支援とはなんでしょう。



この村に住む ルームノさん

僕のお母さんはパネッサだよ。家族を養うために、僕は毎日 20 キロ離れた町に墨を売りに行っているんだ。たまに、お母さんの具合が悪くなることもあるけど、病院がないから、その時はいつも以上に僕が仕事をしているよ。家族だから助け合わないとね。将来、技術を身に付けて家族に楽をさせたいんだ！そのために、学校で勉強もしたいなあ。でも、学校までは 10 キロあるんだよなあ。



ジコモ村の生活を改善するために、どうしたらいいのだろう？

	井戸の修理	教育支援	技術指導	病院・衛生		点数・順位
井戸の修理						点 位
教育支援						点 位
技術指導						点 位
病院・衛生						点 位
						点 位